

知って得するジェネリック医薬品！

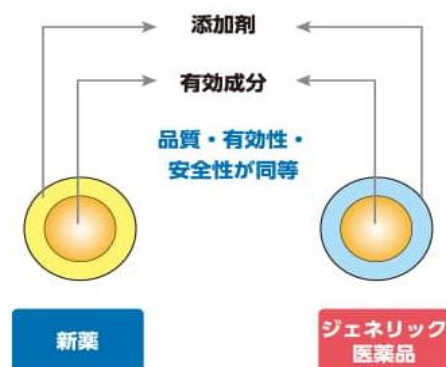
1:ジェネリック医薬品(後発医薬品)とは

みなさんは、「ジェネリック医薬品」という言葉を耳にしたことはありませんか？

ジェネリック医薬品(後発医薬品)は、新薬(先発医薬品)と同じ有効成分を含んでおり、様々な試験を行い、品質、効き目、安全性が同等であることが確認された医薬品です。新薬の特許期間(新薬を開発した医薬品メーカーが、独占的に製造・販売できる期間)が終わった後に、厚生労働省の承認を得て、製造・販売されます。

2:ジェネリック医薬品と新薬の違い

ジェネリック医薬品と新薬では有効成分は同一であるため、治療効果は変わりありませんが、形や大きさ、色、味、添加剤、製造工程は異なってもよいとされています。



〈オーソライズド・ジェネリックとは〉

ジェネリック医薬品の中には、オーソライズド・ジェネリック (AG) という医薬品があります。オーソライズド・ジェネリックは、特許期間が終わる前に、新薬を開発した会社から直接許可を得て販売できるジェネリック医薬品です。有効成分はもちろん、ジェネリック医薬品では異なっていた添加剤や製造工程についても新薬と同じになっており、価格は新薬よりも安くなっています。

ジェネリック医薬品に対し不安感がある方もいます。オーソライズド・ジェネリックはジェネリック医薬品を希望される方が安心して受け入れることを可能とする選択肢となっています。

3:ジェネリック医薬品のメリット、デメリット

【メリット】

○飲みやすく工夫されたものがある

ジェネリック医薬品は、新しい技術で飲みやすさや使用感が改良されたものもあります。

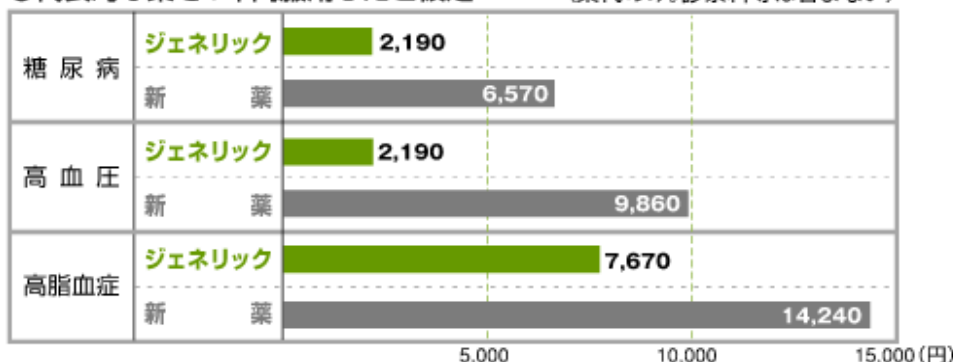
- ・錠剤の大きさを小さくして飲みやすくした薬
- ・錠剤が飲みにくい患者さんのためにゼリー状、液状にした薬
- ・間違っただけで飲まないように文字や色を使って錠剤の表示を工夫した薬
- ・味やにおいを工夫して飲みやすくした薬

○価格が安い

ジェネリック医薬品と新薬は同じ有効成分であるため、薬の開発費や開発期間が少なく、その分低価格で提供することが出来ます。

3割負担
の場合の
薬代の比較

●代表的な薬を1年間服用したと仮定 (薬代のみ。診察料等は含まない)



ジェネリック医薬品と新薬の薬剤費比較

○国の医療費削減

我が国では国民皆保険制度により、医療機関での自己負担額は一部で、残りは国から支給されます。一般的に高齢者の負担額は少なくなっています。少子高齢化が進むにつれ、医療費の増大が深刻な問題となっており、財政が危機的状態になっています。その打開策として、新薬より価格が安いジェネリック医薬品が普及することで医療費削減につながります。

【デメリット】

○外用薬における使用感の違い

ジェネリック医薬品の外用薬では塗り心地や貼り心地が新薬と異なる場合があります。

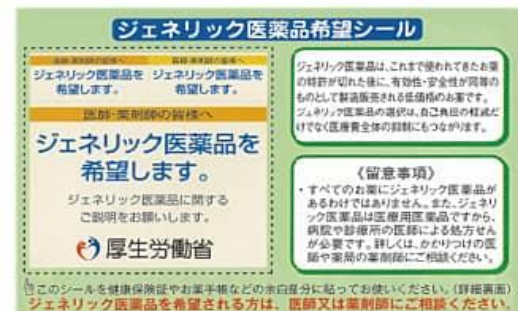
○添加剤によるアレルギー

新薬とは添加剤が異なっている場合があるため、特にアレルギー体質の方は添加剤の種類によってはアレルギー症状が現れる可能性があります。

☆メリット、デメリットを考え薬を選択することが大切です。

4:最後に

日本でのジェネリック医薬品の使用率は70%と年々伸びていますが、世界での使用率（アメリカ：95%、イギリス：80%）と比べると低いです。医療費削減や国民皆保険制度を維持するためにも、ジェネリック医薬品の普及が求められています（令和2年度 後発医薬品使用促進ロードマップに関する調査報告書）。ジェネリック医薬品をご希望の方は、医師や薬剤師にご相談ください。厚生労働省からジェネリック医薬品希望のシールやカードが発行されていますので、活用してみたいかがでしょうか。



ジェネリック医薬品希望シールとカード

参考資料：

- 第一三共エスファ株式会社ホームページ https://www.daiichisankyo-ep.co.jp/whats_generic/
- JGA 日本ジェネリック協会ホームページ <https://www.jga.gr.jp/general/about.html>
- 厚生労働省ホームページ <https://www.mhlw.go.jp/seisaku/2012/03/01.html>
- ジェネリック医薬品を活用しよう <http://www.shaho-net.co.jp/generic2/>